

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104182		
法人名	株式会社 セービング		
事業所名	グループホーム 元町		
所在地	〒750-0045 山口県下関市元町1番7号	Tel 083-227-3507	
自己評価作成日	令和06年01月24日	評価結果市町受理日	令和06年04月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和06年02月10日	評価結果確定日	令和06年03月06日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム元町の理念である「も」モットーは「と」ともに寄り添い助け合い「ま」まあるい心で「ち」地域とつながるグループホーム元町をモットーに、入居者の皆様が「その人らしく生活する」ことを目指しています。コロナが落ち着いてきており外出や散歩、地域の門松作りに参加したりと少しずつ行事に参加させていただいております。また「元町だより」や電子メール・電話・LINE等を活用し家族様とコミュニケーションを図っています。施設内では海鮮丼やかつ丼、お寿司等のテイクアウトの昼食やおやつ作りなどの工夫をします。地域の行事にも参加したり地域に根差したホームを目指しております。「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」「のんびり」生活リハビリを行うことで入居者の残存機能を活用し生き生きとした表情が見られるように自立支援を目的に支援しております。職員は法人全体研修やホーム内の研修に参加しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「元町」は、小学校やコンビニエンスストアが近い街中の賑やかな場所で開設5年目を迎える定員9名の地域密着型グループホームである。ホーム内研修や会社貸与のスマートフォンで受講する法人内研修等、職員が学ぶ機会を得て、職員のスキルアップに取り組んでいる。利用者は、毎日の掃除、洗濯物干し、たみ、食後の片付け等、一人ひとりが出来る事を活かした役割を設け、季節の行事やお食事会、お菓子作り、テイクアウト食等、利用者の生きがいや喜びを大切に支援を行っている。外部発信に力を入れて取り組み、「元町だより」と個人宛の手紙に写真を添えて毎月家族に送付し、日々の暮らしぶりをLINEで伝え、家族の安心に繋げている。「自分の親を入居させたいと思えるホーム」を目標に、管理者を中心に温かなチーム介護に取り組んでいる「グループホーム 元町」である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を共有部及び玄関に掲示している。職員会議の際に唱和している。また職場内研修にて理念についての研修(共有)を行い職員全体で共有して理念の実践につなげている。新規職員にも理念の研修を行う。	「もとまち」の頭文字を取って作った理念、「モットーは共に寄り添い助け合い、まあるい心で地域に繋がるグループホーム元町」を掲げ、毎日の朝礼時に出勤職員で唱和し、内部研修の中でも理念の意義や目的を確認する機会を設け、理念を職員間で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナが落ち着いてきているため地域の行事、大坪八幡宮の神輿来訪や年末は自治会長さんにお誘いいただき小・中学生や地域の方と門松づくりに参加しました。	町内会に加入し、ホーム便りを自治会会長に届けてホームの事を知らせている。新型コロナ5類移行に伴ない、町内清掃や八幡宮の神輿の来訪、散歩時の地域の方との挨拶等、少しずつ交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内の行事等伺い参加できる行事には積極的に参加している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議にて外部評価の意義について説明すると共に自己評価書類を全職員に配布し記入後取りまとめている。自己評価を記入することによりケアの振り返りを行い介護サービスの質の向上を図ることができるよう取り組んでいる。	職員会議の中で管理者は、外部評価の意義や目的を分かり易く説明し、「これを良いきっかけとしてステップアップしていこう」と、職員全員に自己評価作成を呼び掛けている。外部評価結果を活かして具体的な改善に取り組み、介護サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが落ち着き令和5年度より運営推進会議を行っている。自治会長さんや地域包括支援センターの職員さんに参加いただき地域の情報交換等行っている。	新型コロナ5類移行に伴ない、会議では利用者状況、職員体制、行事、今後の予定、ヒヤリハット・事故、内部研修等について報告し、委員から意見や質問、情報等を提供してもらい、話し合いを行い、ホームの運営や業務改善、利用者の日常介護に反映させている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員さんとは電話等で相談や情報交換を行い情報交換を行っている。また地域包括支援センター職員とは運営推進会議や議事録持参時に情報交換等の連携を図っている。	管理者は運営推進会議の議事録を地域包括支援センターと行政担当窓口を持参して直接話をするように心がけている。疑問点や困難事例等があれば、電話やメールで行政に相談してアドバイスを受ける等、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は職場内研修や身体的拘束適正化委員会にて禁止の対象となる行為について理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新規職員にはマニュアルに基づいて研修を行い理解を深める。玄関の施錠は行っているが外出傾向の強い利用者については職員が付き添い話を傾聴したり散歩行っている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、身体拘束の職員研修を年2回実施して、身体拘束が利用者に及ぼす弊害について職員一人ひとりが理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。前が道路、裏が線路という立地の為、利用者の安全第一に玄関の施錠は行っているが、外出したい様子があれば職員と一緒に掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を行い、日頃より利用者様の身体、精神的な状態を把握した上で異常や変化に注意し、申し送りや職員会議を通じて、情報の共有化を図り防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度の理解に努め職場内研修を行っている。また活用し支援に繋がりたいと考えている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時入居者の家族が納得されるまで説明を行い利用者家族の理解、納得に努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。また面会時などに意見や要望を聞き職員間で共有している。また電話やメール等での相談に応じている。	家族が相談や苦情を言いやすい関係作りを心がけている。毎月、ホーム便りと利用者一人ひとりの暮らしの状況と変化の記録と写真を添えて家族に送付し、日々の表情はLINEで送る等、積極的に発信し、家族の安心に繋がっている。家族からの意見や要望、苦情については職員間で検討し、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は申し送り時や日常の業務の中で職員の意見や提案を聞き判断できない場合は代表者等に尋ね問題を放置せず解決するように努めている。	毎月1回16時から17時に職員会議を開催し、話しやすい雰囲気の中で、職員の気づきや意見が出されている。毎日の申し送りや日常の業務の中でも職員の意見や要望、心配な事を聴き取り、ホーム運営や業務、日常介護に反映出来るように取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通し職員個々の勤務状況の把握に努め各自が向上心を持ち続けるよう職場環境、条件の整備に当たっている。給与水準の条件整備には至っていないが有給休暇はとりやすくなっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修でマナー、コンプライアンス、企業理念、行動指針、個人情報保護等あり、全職員会社貸与のスマートフォンで学習する。グループホーム内の研修は年間のテーマを決め資料を作成し職員会議の中で実行している。	内部研修の充実を図り、年間計画に基づいて毎月1回の職員会議の時に実施し、職員全体の介護サービスの質の向上に取り組んでいる。職場のマナーやコンプライアンス、企業理念等を会社貸与のスマートフォンを使って各自が学習し、法人内のテストを受けて確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナは落ち着いてきたがまだ同業者間の交流や勉強会への参加は少ない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に基本情報シートを家族に見入して頂き情報収集を行いサービス導入前に本人の心身の状況を把握している。本人の思いを傾聴し気兼ねなく安心して生活できるように努める。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを十分に行い困っていること不安なこと要望等聞き事業所として出来る事をお伝えしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活動作、身体的・精神的健康、社会関係、経済状況、住生活環境などについて本人と家族等のニーズを的確に把握し適切な支援が出来る様に努める。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士(大家族)として本人の出来る事、好きなことを見極め本人の意思で生活できるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会制限が緩和したこともあり居室で面会して頂いている。また玄関先出といわれる利用者様に対しても少しでも顔を見て頂くように促している。また元町だよりやラインを活用し日々の様子や行事を写真でお伝えしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が望まれた際に電話をして頂く。また荷物等届いた際には電話や手紙等でお礼をして頂いている。面会の機会も去年よりも増えている。	コロナ対策の中で、年賀状や手紙のやり取り、電話の取り次ぎやテレビ電話等、可能な限りの馴染みの関係継続の支援に取り組んでいた。新型コロナウイルス移行に伴ない、コロナの状況を判断しながら、面会の制限を検討し家族との墓参りや通院等、個別に対応を再開している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて皆で一緒にお茶や食事をしたり会話やレクリエーションを行っていただき皆で一緒に楽しむ機会を作っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所されたり、他施設に移られた後でもお見舞いや電話等でその後の様子を尋ねる等相談しやすい関係を築くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時家族様へ基本情報シートの記入をして頂き今までの暮らしぶりや望む生活、ADL、健康状況、コミュニケーション能力についての把握に努めている。また日々の入居者の言動を24時間生活変化シートに記録や申し送りのラインワークスを活用し本人様の状況把握に努めている。	入居時に、センター方式シートを活用した基本情報シートに記入してもらい、生活歴や本人の希望する暮らし、健康状態等を把握している。24時間生活変化シートに利用者の言動を記録し、申し送りやLINEワークスで共有して、利用者の意向に沿った介護サービスに繋げている。意向表出の難しい利用者には、家族に相談し、職員が寄り添う中で思いを汲み取る努力をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報や本人様に話を聞く等は職員間で情報共有し把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化シートに入居者一人ひとりの生活の様子を記入するとともに健康チェック表にバイタルや食事排泄を記入し朝夕の申し送りやラインワークスにて共有を行っている。また一人ひとりの有する能力の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向主治医の意見を参考にして職員間でケアカンファレンスを行い援助目標、援助内容を決め介護計画を作成している。家族の面会時等に移行の再確認と介護計画の説明を行っている。毎月モニタリングを行い現状に即した計画の見直しを行っている。	計画作成担当者は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら意見や要望を聴き取り、毎月のカンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月から1年毎に作成している。利用者が重度化したり病院退院時には、状態変化に合わせた介護計画をその都度作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きは24時間生活変化シート、健康チェック表会社貸与の「スマートフォン(ラインワークス)等」を活用し職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への受診支援や不穩時の個別の対応や外出支援など本人に合わせた支援が出来るよう柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスも落ち着いてきており自治会長さんにお声掛けいただき地域の掃除や門松づくりに参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。内科、心療内科ともに2週間に1回の往診がある。協力医療機関往診の際には利用者の心身の状態を伝えている。また緊急時等は電話にて相談し連携を図ります。	入居時に利用者や家族の希望を聴きながら主治医を決定している。往診体制が整った協力医療機関(内科、診療内科)による月2回の往診と、週2回の訪問看護師、ホーム看護師、介護職員との連携で24時間安心の医療体制が整っている。他科受診は家族の協力を得て受診し、結果をホームに連絡してもらっている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週3回バイタルサインの確認等を行っている。また日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを共有し協力医療機関へも報告している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は面会に行き病院の医師や看護師、相談員と連携を図りまた家族とも話し合いながら早期隊員ができるよう努める。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については契約時に家族と話をしている。またその都度家族の思いに柔軟に対応できるよう協力医療機関と連携している。	契約時に、ホームの終末期の指針を基に利用者や家族に説明し承諾を得ている。利用者の状態変化に合わせて、その都度家族の気持ちを確認しながら対応している。重度化が進むと、主治医に相談しながら方針を話し合い、看取りも含め、出来るだけ利用者や家族の希望に応える支援体制を整えている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告書を記録し職員間で事故防止策について検討後回覧し情報共有している。また職員会議で報告を行い再検証して事故防止に取り組んでいる。また職場内研修も行っている。	事故防止や発生時の対応マニュアルを整備し、ヒヤリハットを活用し事故を未然に防ぐ体制を整えている。事故が発生した場合には、マニュアルを基に職員が冷静に素早く対応できる体制を構築している。消防署主催の救命救急法の研修を職員が受講し、応急手当処置方法を学び、実践力を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼、夜を想定し消化、避難、通報訓練を行っている。また災害発生時に備え職員会議棟で風水被害時の避難場所の確認を行っている。	年2回非常災害を想定した避難訓練を実施し、消火器や通報装置の使い方を確認し、非常口、避難経路、避難場所を確保して、利用者全員を安全に避難場所に誘導する体制を整えている。また、非常食や飲料水を備蓄し、防災の日には非常食の試食も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人研修や職場内研修で接遇について学び馴れ馴れしい言葉や流行り言葉は使わず、入居者が聞き取りやすいように意識して話しかけている。新しく入った職員には守秘義務について説明している。個人カルテは外側から見えないように保管している。	利用者のプライバシーを守る介護の在り方を、職員会議や毎日の申し送り時に職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の記録の保管や職員の守秘義務について、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時の飲み物やお菓子、食事など本人が食べたいものを聞いている。家にいるときとおなじように気兼ねなく過ごせるように本人の思いや希望を聞いている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を居室で過ごされたりリビングでテレビ鑑賞や談笑したり本人の意思に添ってその人らしい生活ができるよう支援していく。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じてその人らしいおしゃれができるように一緒に衣類の整理を行っている。また2カ月に1回程度、訪問理容を利用し皆心待ちにされている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旨楽庵の管理栄養士が考えた献立の料理が毎日配達されている。ホーム内では温めや簡単な調理をして入居者と共に盛り付けや配膳を行い出来立ての料理を召し上がっていただいている。的一人ひとりの状態にあった食形態になるように刻み等の工夫を行っている。	セントラルキッチンで管理栄養士が立てた献立の料理が配食され、ホームで炊飯と汁物を作って、利用者と職員がつぎ分けや盛り付けをした食事を提供している。またテーブル拭きや食器洗い等を利用者と職員と一緒にを行い、利用者の活躍できる場面を提供している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせる方には水分にとろみをつけたりその人に合った食形態の工夫をしている。水分量が不足している入居者様にはお茶ゼリーの提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じて義歯の洗浄をしている。口腔ケアの拒否をされる方には時間をおいて声掛けをし自分の力で口腔ケアできない方には理解しやすいように声掛けを工夫している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間生活変化シートを活用してパターンの把握に努め声かけ、誘導を行っている。トイレの場所が分からずにそれぞれとされる方に対してもトイレで排泄できるように声掛け誘導している。居室にトイレがあり排便のパターンがつかみにくい方に対しても声掛けやトイレの場所の掲示を行っている。	職員は、排泄チェック表や24時間生活変化シートで利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員2人体制で支援している。夜間は利用者の希望を聴きながらトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツ、パットの使用等、柔軟に対応している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的にヤクルトやジョアの提供を行っている。また運動(体操)を取り入れたレクリエーションや散歩を行っている。なるべく薬に頼らず排泄ができるよう気を付けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	月曜から土曜までの14時から16時までゆっくりと温まることができるように入浴剤を入れ入浴を楽しめるように工夫している。入浴をしたくない利用者様に対しては声掛けの工夫や時間帯を代えたり工夫を行っている。	入浴は週2～3回、14時～16時の間に湯船にゆっくりと入ってもらい、利用者と職員が会話をしながら楽しい入浴支援となっている。入浴を拒む利用者には、時間を変更したり、職員が交代して声掛けしている。それでも無理な場合は清拭や足浴に変更し、利用者の清潔保持に努めている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は入居者の半数が居室やソファでくつろがれるため室温や湿度、また物音に注意している。寝具も清潔にしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の副作用はおおむね理解している。また服薬後の様子観察に努め様子観察をしている。新しく薬が変わった際はラインワークスで職員間で共有している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の残存機能を把握し毎日の掃除や洗濯、選択物干し、洗濯ものたたみ、調理や準備、片づけ(茶碗洗い)など一人ひとりが持っている力を生かせるように支援している。また季節感を大事にし飾りつけやイベント等工夫している。	毎日の掃除や洗濯もの干し、たたみ、料理のつぎ分け、盛り付け等、これまで利用者が生活の中で取り組んできたことをそのままホームの中で出来るように支援している。また、一人ひとりの誕生日会を祝ったり、敬老会やクリスマス会等の行事やテイクアウトを利用する等して、楽しみ事を演出し、利用者の気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へ散歩や買い物、また地域の門松作りなど外出する機会を増やしている。	新型コロナ5類移行に伴ない、コロナ状況を判断しながら、時期を外しての初詣に出かけたり、季節の花を観にドライブを楽しむ等、利用者の気分転換を図っている。また、近隣への散歩や玄関先のプランターに花を植える等、日常的にも外気に触れられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は持たれていないが身の回りの必要なものは家族の了承を得て立替金で購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話して頂いている。また手紙や荷物等届いた際は一緒にお礼状や電話をかけている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や湿度明るさに配慮しリビングのソファやテーブル席にて親しい入居者同士会話を楽しまれる。ゆっくり思い思いに過ごされている	広々としたリビングの中に食事をするテーブルや椅子、テレビの前にソファを設置して、利用者が思い思いの場所でゆったりと過ごせるよう配慮している。音や照明、温度や湿度、換気にも注意して、清潔で居心地の良い共用空間である。利用者や制作した貼り絵等の作品を掲示して、温かみのある家庭的な雰囲気の生活空間である。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやテーブル席にて親しい入居者同士会話を楽しまれる。座布団やひざ掛けクッション等も自由に使用して頂いている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団、衣類、衣装ケース、仏壇、写真等持ってきていただき本人様が快適に過ごして頂けるよう配慮している。	入居時に、利用者や家族に、「馴染みの物を持ってきてください」とお願いし、家で使っていた身の回りの物や大切な物、生活必需品を持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごせるように配慮している。各居室にはトイレが設置され、プライバシーにも配慮されている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室等手すりを設けている。居室は安全に生活して頂けるよう整理整頓や環境整備に努め動線を考え家具を配置している。また居室の入り口に名前を掲示したりトイレにも「トイレ」「便所」と分かりやすいようにしている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104182		
法人名	株式会社 セービング		
事業所名	グループホーム 元町		
所在地	〒750-0045 山口県下関市元町1番7号	Tel 083-227-3507	
自己評価作成日	令和06年01月24日	評価結果市町受理日	令和06年04月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和06年02月10日	評価結果確定日	令和06年03月06日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム元町の理念である「も」モットーは「と」ともに寄り添い助け合い「ま」まあるい心で「ち」地域とつながるグループホーム元町をモットーに、入居者の皆様が「その人らしく生活する」ことを目指しています。コロナが落ち着いてきており外出や散歩、地域の門松作りに参加したりと少しずつ行事に参加させていただいております。また「元町だより」や電子メール・電話・LINE等を活用し家族様とコミュニケーションを図っています。施設内では海鮮丼やかつ丼、お寿司等のテイクアウトの昼食やおやつ作りなどの工夫をします。地域の行事にも参加したり地域に根差したホームを目指しております。「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」「のんびり」生活リハビリを行うことで入居者の残存機能を活用し生き生きとした表情が見られるように自立支援を目的に支援しております。職員は法人全体研修やホーム内の研修に参加しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「元町」は、小学校やコンビニエンスストアが近い街中の賑やかな場所で開設5年目を迎える定員9名の地域密着型グループホームである。ホーム内研修や会社貸与のスマートフォンで受講する法人内研修等、職員が学ぶ機会を得て、職員のスキルアップに取り組んでいる。利用者は、毎日の掃除、洗濯物干し、たみ、食後の片付け等、一人ひとりが出来る事を活かした役割を設け、季節の行事やお食事会、お菓子作り、テイクアウト食等、利用者の生きがいや喜びを大切に支援を行っている。外部発信に力を入れて取り組み、「元町だより」と個人宛の手紙に写真を添えて毎月家族に送付し、日々の暮らしぶりをLINEで伝え、家族の安心に繋げている。「自分の親を入居させたいと思えるホーム」を目標に、管理者を中心に温かなチーム介護に取り組んでいる「グループホーム 元町」である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を共有部及び玄関に掲示している。職員会議の際に唱和している。また職場内研修にて理念についての研修(共有)を行い職員全体で共有して理念の実践につなげている。新規職員にも理念の研修を行う。	「もとまち」の頭文字を取って作った理念、「モットーは共に寄り添い助け合い、まあるい心で地域に繋がるグループホーム元町」を掲げ、毎日の朝礼時に出勤職員で唱和し、内部研修の中でも理念の意義や目的を確認する機会を設け、理念を職員間で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナが落ち着いてきているため地域の行事、大坪八幡宮の神輿来訪や年末は自治会長さんにお誘いいただき小・中学生や地域の方と門松づくりに参加しました。	町内会に加入し、ホーム便りを自治会会長に届けてホームの事を知らせている。新型コロナ5類移行に伴ない、町内清掃や八幡宮の神輿の来訪、散歩時の地域の方との挨拶等、少しずつ交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内の行事等伺い参加できる行事には積極的に参加している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議にて外部評価の意義について説明すると共に自己評価書類を全職員に配布し記入後取りまとめている。自己評価を記入することによりケアの振り返りを行い介護サービスの質の向上を図ることができるよう取り組んでいる。	職員会議の中で管理者は、外部評価の意義や目的を分かり易く説明し、「これを良いきっかけとしてステップアップしていこう」と、職員全員に自己評価作成を呼び掛けている。外部評価結果を活かして具体的な改善に取り組み、介護サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが落ち着き令和5年度より運営推進会議を行っている。自治会長さんや地域包括支援センターの職員さんに参加いただき地域の情報交換等行っている。	新型コロナ5類移行に伴ない、会議では利用者状況、職員体制、行事、今後の予定、ヒヤリハット・事故、内部研修等について報告し、委員から意見や質問、情報等を提供してもらい、話し合いを行い、ホームの運営や業務改善、利用者の日常介護に反映させている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員さんとは電話等で相談や情報交換を行い情報交換を行っている。また地域包括支援センター職員とは運営推進会議や議事録持参時に情報交換等の連携を図っている。	管理者は運営推進会議の議事録を地域包括支援センターと行政担当窓口を持参して直接話をするように心がけている。疑問点や困難事例等があれば、電話やメールで行政に相談してアドバイスを受ける等、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は職場内研修や身体的拘束適正化委員会にて禁止の対象となる行為について理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新規職員にはマニュアルに基づいて研修を行い理解を深める。玄関の施錠は行っているが外出傾向の強い利用者については職員が付き添い話を傾聴したり散歩行っている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催し、身体拘束の職員研修を年2回実施して、身体拘束が利用者に及ぼす弊害について職員一人ひとりが理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。前が道路、裏が線路という立地の為、利用者の安全第一に玄関の施錠は行っているが、外出したい様子があれば職員と一緒に掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を行い、日頃より利用者様の身体、精神的な状態を把握した上で異常や変化に注意し、申し送りや職員会議を通じて、情報の共有化を図り防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度の理解に努め職場内研修を行っている。また活用し支援に繋がれたいと考えている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時入居者の家族が納得されるまで説明を行い利用者家族の理解、納得に努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。また面会時などに意見や要望を聞き職員間で共有している。また電話やメール等での相談に応じている。	家族が相談や苦情を言いやすい関係作りを心がけている。毎月、ホーム便りと利用者一人ひとりの暮らしの状況と変化の記録と写真を添えて家族に送付し、日々の表情はLINEで送る等、積極的に発信し、家族の安心に繋がっている。家族からの意見や要望、苦情については職員間で検討し、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は申し送り時や日常の業務の中で職員の意見や提案を聞き判断できない場合は代表者等に尋ね問題を放置せず解決するように努めている。	毎月1回16時から17時に職員会議を開催し、話しやすい雰囲気の中で、職員の気づきや意見が出されている。毎日の申し送りや日常の業務の中でも職員の意見や要望、心配な事を聴き取り、ホーム運営や業務、日常介護に反映出来るように取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通し職員個々の勤務状況の把握に努め各自が向上心を持ち続けるよう職場環境、条件の整備に当たっている。給与水準の条件整備には至っていないが有給休暇はとりやすくなっている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修でマナー、コンプライアンス、企業理念、行動指針、個人情報保護等あり、全職員会社貸与のスマートフォンで学習する。グループホーム内の研修は年間のテーマを決め資料を作成し職員会議の中で実行している。	内部研修の充実を図り、年間計画に基づいて毎月1回の職員会議の時に実施し、職員全体の介護サービスの質の向上に取り組んでいる。職場のマナーやコンプライアンス、企業理念等を会社貸与のスマートフォンを使って各自が学習し、法人内のテストを受けて確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナは落ち着いてきたがまだ同業者間の交流や勉強会への参加は少ない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に基本情報シートを家族に見入して頂き情報収集を行いサービス導入前に本人の心身の状況を把握している。本人の思いを傾聴し気兼ねなく安心して生活できるように努める。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを十分に行い困っていること不安なこと要望等聞き事業所として出来る事をお伝えしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活動作、身体的・精神的健康、社会関係、経済状況、住生活環境などについて本人と家族等のニーズを的確に把握し適切な支援が出来る様に努める。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士(大家族)として本人の出来る事、好きなことを見極め本人の意思で生活できるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会制限が緩和したこともあり居室で面会して頂いている。また玄関先出といわれる利用者様に対しても少しでも顔を見て頂くように促している。また元町だよりやラインを活用し日々の様子や行事を写真でお伝えしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が望まれた際に電話をして頂く。また荷物等届いた際には電話や手紙等でお礼をして頂いている。面会の機会も去年よりも増えている。	コロナ対策の中で、年賀状や手紙のやり取り、電話の取り次ぎやテレビ電話等、可能な限りの馴染みの関係継続の支援に取り組んでいた。新型コロナウイルス移行に伴ない、コロナの状況を判断しながら、面会の制限を検討し家族との墓参りや通院等、個別に対応を再開している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて皆で一緒にお茶や食事をしたり会話やレクリエーションを行っていただき皆で一緒に楽しむ機会を作っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所されたり、他施設に移られた後でもお見舞いや電話等でその後の様子を尋ねる等相談しやすい関係を築くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時家族様へ基本情報シートの記入をして頂き今までの暮らしぶりや望む生活、ADL、健康状況、コミュニケーション能力についての把握に努めている。また日々の入居者の言動を24時間生活変化シートに記録や申し送りのラインワークスを活用し本人様の状況把握に努めている。	入居時に、センター方式シートを活用した基本情報シートに記入してもらい、生活歴や本人の希望する暮らし、健康状態等を把握している。24時間生活変化シートに利用者の言動を記録し、申し送りやLINEワークスで共有して、利用者の意向に沿った介護サービスに繋げている。意向表出の難しい利用者には、家族に相談し、職員が寄り添う中で思いを汲み取る努力をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報や本人様に話を聞く等は職員間で情報共有し把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化シートに入居者一人ひとりの生活の様子を記入するとともに健康チェック表にバイタルや食事排泄を記入し朝夕の申し送りやラインワークスにて共有を行っている。また一人ひとりの有する能力の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向主治医の意見を参考にして職員間でケアカンファレンスを行い援助目標、援助内容を決め介護計画を作成している。家族の面会時等に移行の再確認と介護計画の説明を行っている。毎月モニタリングを行い現状に即した計画の見直しを行っている。	計画作成担当者は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら意見や要望を聴き取り、毎月のカンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月から1年毎に作成している。利用者が重度化したり病院退院時には、状態変化に合わせた介護計画をその都度作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きは24時間生活変化シート、健康チェック表会社貸与の「スマートフォン(ラインワークス)等」を活用し職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への受診支援や不穩時の個別の対応や外出支援など本人に合わせた支援が出来るよう柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスも落ち着いてきており自治会長さんにお声掛けいただき地域の掃除や門松づくりに参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。内科、心療内科ともに2週間に1回の往診がある。協力医療機関往診の際には利用者の心身の状態を伝えている。また緊急時等は電話にて相談し連携を図ります。	入居時に利用者や家族の希望を聴きながら主治医を決定している。往診体制が整った協力医療機関(内科、診療内科)による月2回の往診と、週2回の訪問看護師、ホーム看護師、介護職員との連携で24時間安心の医療体制が整っている。他科受診は家族の協力を得て受診し、結果をホームに連絡してもらっている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週3回バイタルサインの確認等を行っている。また日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを共有し協力医療機関へも報告している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は面会に行き病院の医師や看護師、相談員と連携を図りまた家族とも話し合いながら早期隊員ができるよう努める。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については契約時に家族と話をしている。またその都度家族の思いに柔軟に対応できるよう協力医療機関と連携している。	契約時に、ホームの終末期の指針を基に利用者や家族に説明し承諾を得ている。利用者の状態変化に合わせて、その都度家族の気持ちを確認しながら対応している。重度化が進むと、主治医に相談しながら方針を話し合い、看取りも含め、出来るだけ利用者や家族の希望に応える支援体制を整えている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告書を記録し職員間で事故防止策について検討後回覧し情報共有している。また職員会議で報告を行い再検証して事故防止に取り組んでいる。また職場内研修も行っている。	事故防止や発生時の対応マニュアルを整備し、ヒヤリハットを活用し事故を未然に防ぐ体制を整えている。事故が発生した場合には、マニュアルを基に職員が冷静に素早く対応できる体制を構築している。消防署主催の救命救急法の研修を職員が受講し、応急手当処置方法を学び、実践力を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼、夜を想定し消化、避難、通報訓練を行っている。また災害発生時に備え職員会議棟で風水被害時の避難場所の確認を行っている。	年2回非常災害を想定した避難訓練を実施し、消火器や通報装置の使い方を確認し、非常口、避難経路、避難場所を確保して、利用者全員を安全に避難場所に誘導する体制を整えている。また、非常食や飲料水を備蓄し、防災の日には非常食の試食も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人研修や職場内研修で接遇について学び馴れ馴れしい言葉や流行り言葉は使わず、入居者が聞き取りやすいように意識して話しかけている。新しく入った職員には守秘義務について説明している。個人カルテは外側から見えないように保管している。	利用者のプライバシーを守る介護の在り方を、職員会議や毎日の申し送り時に職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の記録の保管や職員の守秘義務について、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時の飲み物やお菓子、食事など本人が食べたいものを聞いている。家にいるときとおなじように気兼ねなく過ごせるように本人の思いや希望を聞いている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を居室で過ごされたりリビングでテレビ鑑賞や談笑したり本人の意思に添ってその人らしい生活ができるよう支援していく。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じてその人らしいおしゃれができるように一緒に衣類の整理を行っている。また2カ月に1回程度、訪問理容を利用し皆心待ちにされている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旨楽庵の管理栄養士が考えた献立の料理が毎日配達されている。ホーム内では温めや簡単な調理をして入居者と共に盛り付けや配膳を行い出来立ての料理を召し上がっていただいている。的一人ひとりの状態にあった食形態になるように刻み等の工夫を行っている。	セントラルキッチンで管理栄養士が立てた献立の料理が配食され、ホームで炊飯と汁物を作って、利用者と職員がつぎ分けや盛り付けをした食事を提供している。またテーブル拭きや食器洗い等を利用者と職員と一緒に、利用者の活躍できる場面を提供している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせる方には水分にとろみをつけたりその人に合った食形態の工夫をしている。水分量が不足している入居者様にはお茶ゼリーの提供をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じて義歯の洗浄をしている。口腔ケアの拒否をされる方には時間をおいて声掛けをし自分の力で口腔ケアできない方には理解しやすいように声掛けを工夫している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間生活変化シートを活用してパターンの把握に努め声かけ、誘導を行っている。トイレの場所が分からずにそれぞれとされる方に対してもトイレで排泄できるように声掛け誘導している。居室にトイレがあり排便のパターンがつかみにくい方に対しても声掛けやトイレの場所の掲示を行っている。	職員は、排泄チェック表や24時間生活変化シートで利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員2人体制で支援している。夜間は利用者の希望を聴きながらトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツ、パットの使用等、柔軟に対応している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的にヤクルトやジョアの提供を行っている。また運動(体操)を取り入れたレクリエーションや散歩を行っている。なるべく薬に頼らず排泄ができるよう気を付けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	月曜から土曜までの14時から16時までゆっくりと温まることができるように入浴剤を入れ入浴を楽しめるように工夫している。入浴をしたくない利用者様に対しては声掛けの工夫や時間帯を代えたり工夫を行っている。	入浴は週2～3回、14時～16時の間に湯船にゆっくりと入ってもらい、利用者と職員が会話をしながら楽しい入浴支援となっている。入浴を拒む利用者には、時間を変更したり、職員が交代して声掛けしている。それでも無理な場合は清拭や足浴に変更し、利用者の清潔保持に努めている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は入居者の半数が居室やソファでくつろがれるため室温や湿度、また物音に注意している。寝具も清潔にしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の副作用はおおむね理解している。また服薬後の様子観察に努め様子観察をしている。新しく薬が変わった際はラインワークスで職員間で共有している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の残存機能を把握し毎日の掃除や洗濯、選択物干し、洗濯ものたたみ、調理や準備、片づけ(茶碗洗い)など一人ひとりが持っている力を生かせるように支援している。また季節感を大事にし飾りつけやイベント等工夫している。	毎日の掃除や洗濯もの干し、たたみ、料理のつぎ分け、盛り付け等、これまで利用者が生活の中で取り組んできたことをそのままホームの中で出来るように支援している。また、一人ひとりの誕生日会を祝ったり、敬老会やクリスマス会等の行事やテイクアウトを利用する等して、楽しみ事を演出し、利用者の気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へ散歩や買い物、また地域の門松作りなど外出する機会を増やしている。	新型コロナ5類移行に伴ない、コロナ状況を判断しながら、時期を外しての初詣に出かけたり、季節の花を観にドライブを楽しむ等、利用者の気分転換を図っている。また、近隣への散歩や玄関先のプランターに花を植える等、日常的にも外気に触れられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は持たれていないが身の回りの必要なものは家族の了承を得て立替金で購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話して頂いている。また手紙や荷物等届いた際は一緒にお礼状や電話をかけている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や湿度明るさに配慮しリビングのソファやテーブル席にて親しい入居者同士会話を楽しまれる。ゆっくり思い思いに過ごされている	広々としたリビングの中に食事をするテーブルや椅子、テレビの前にソファを設置して、利用者が思い思いの場所でゆったりと過ごせるよう配慮している。音や照明、温度や湿度、換気にも注意して、清潔で居心地の良い共用空間である。利用者や制作した貼り絵等の作品を掲示して、温かみのある家庭的な雰囲気の生活空間である。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやテーブル席にて親しい入居者同士会話を楽しまれる。座布団やひざ掛けクッション等も自由に使用して頂いている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団、衣類、衣装ケース、仏壇、写真等持ってきていただき本人様が快適に過ごして頂けるよう配慮している。	入居時に、利用者や家族に、「馴染みの物を持ってきてください」とお願いし、家で使っていた身の回りの物や大切な物、生活必需品を持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごせるように配慮している。各居室にはトイレが設置され、プライバシーにも配慮されている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室等手すりを設けている。居室は安全に生活して頂けるよう整理整頓や環境整備に努め動線を考え家具を配置している。また居室の入り口に名前を掲示したりトイレにも「トイレ」「便所」と分かりやすいようにしている。		